

上神明 天祖神社社報

第184号 平成24年11月1日



社頭所感

天祖神社宮司 斎藤篤信

「新嘗祭」

新嘗祭は、シンジョウサイともいい十一月二十三日に天皇が新穀を神様に奉つて感謝をし、共食される祭儀です。原則として天皇の親祭とされます。

記紀には、高天原で天照大御神が新嘗の祭りを行われたことが記されており起源の古さがしのべれます。

古代より十一月の下の卯の日(中の卯の日)に行われるのが例でしたが、明治になり太陽暦が使用されるのに伴い十一月二十三日に定まりました。

戦後は、勤労感謝の日として国民の祝日になりました。

新嘗祭は農耕文化を中心としてきた日本の祭りの中でも重要な祭儀です。

ご承知のように、稲作は天地自然の恵みにより収穫することが出来るのですが、古代の人々は早くからその自然の創造、化育の力に気づき、その根源は自然のムスピの靈力にあると考えておりました。イネは生命の根とも言われるように、神々のムスピの力によって作られ、大生命の根源であります。そのために古くより、稲が穀霊として信仰の対象にもなっているのです。また稲米は私達が生きるためのエネルギー源でもあります。それ故に先人達も稲は、神宿るもの、神様から賜ったものとして大事にしてきたわけです。

維持費 御納入のお願い

拝啓 氏子崇敬者各位におかれましては益々御清祥の御事とお慶び申し上げます。

平素は当神社の維持運営に対し格別の御理解御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

扱 神社の運営につきましては歳出削減に努めておりますが、伝統ある氏神さまの継承のためには皆様の御浄財が必要不可欠でございます。例年皆様より御抛出いただいております維持費は上神明天祖神社の維持運営管理費として、主に儀式費・神饌費・公課・光熱費等に充てられている費用で、その収支につきましては例年社報にてご報告申し上げているところでございます。

この維持費により、上神明天祖神社の安定的な尊厳維持が図られ、伝統あるよき氏神さまへの信仰が継承されると考えております。

御納入いただいている皆様にはこの場を借りまして厚く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬ御協力いただきますようお願い申し上げます。

また今回初めて以上の趣旨をお汲み取りになられ、ご賛同いただける方がいらっしやいましたら、誠にお手数ですが神社まで御連絡いただければ幸いです。

末筆ながら貴家御一統様の益々の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。 敬具

平成二十四年十月吉日

上神明天祖神社 宮司 齊藤篤信
氏子総代会 会長 草柳洋一

氏子崇敬者各位

七五三参り

以前は十一月十五日晴れ着で着飾った子供が神社に参詣することを七五三詣りといわれています。

最近はその日に限らず都合の良い日に訪れます。神様に今まで無事に過ごしてきたことに感謝し、今後とも健やかに成長することをお祈りいたします。

三歳は、髪置きかみおきといって男女頭髪を伸ばし始めることを意味します。

五歳は、袴着はかまぎといって男子が初めて袴を着用することをいいます。

七歳は、帯解おびとぎといって女子が幼児用の紐を解き大人と同じ帯を用いることを表し、子供の成長を社会的に認知するために行われ日本の美しい文化の一つであります。

平成二十四年度維持費ご納入のお願い

今月上旬頃より今年度神社維持費のご納入のお願いにお伺いいたします。

どうぞよろしくご協力お願い申しあげます。 宮司

自分の「善い心」を育てることが
「自分に勝つ」ということである。

「自分に勝つ」というのは、自分の善い心を育てて行くことです。どんな失敗にもめげず、さらによい心をどんどん引き出し「自分に勝つ」

練習を続けることが大切なのです。

月次祭

毎月一日午前七時より、その月の氏子の皆様の家内安全を祈る月次祭を行っております。

参列者全員で「大祓詞」を奉唱し、社務所

において「朝粥」を食し歓談いたします。

★九月一日に参列なさった方々のご芳名

草柳洋一様、矢羽直公様、金子省太郎様、

磯 昭夫様、富田登美子様、高須みちよ様、

野秋くに様、青柳富子様、吉川トミ様、

柵木ヒサ様、井渕良子様

★十月一日に参列なさった方々のご芳名

矢羽直公様、金子省太郎様、松永吉祥様、

野秋くに様、富田登美子様、高須みちよ様、

青柳富子様、白土政枝様、柵木ヒサ様

人生の出会いを育てましょう

今の時代は出会い系サイトなどいろいろありますが、私達はちよつと出会っただけでは信頼関係を結べないものです

人生のいい出会いとは、自分自身が苦勞して心の視野をひろめ、人生観を深め魂を進歩させて、前向きに生きて行くことがいい出会いにつながるものだとおもいます。

「家庭こそが人生の修行道場」

「若いものの意見となすびの花は
千にひとつの無駄もない」

これは「親の意見となすびの花は千にひとつの無駄もない」という言葉を現代の人々に言い換えたものです。

歳をとると、ついつい「わかってる」とか「常識や」といって、そこに座り込もうとします。ところが、いままで自分がやって来たことや知っている場所にどっかりと座ってしまったら、すぐにアウトになるような大きな変動の時代に私たちは今生きています。

ですから、その場その場に応じて変わっていくような柔軟なところが大切なのです。ですから、歳をとってからでも学ばせてもらおうという習慣を若い頃から身につけておかなければなりません。

自分の持っているものを百パーセント出し尽し、人に教えさせていただき、人からも大いに学ばせていただいて、常日頃からそういう心意気で生活していると、それがいつの間にか習慣になるものなのです。

もし、あなたが年寄りの立場でしたら、お孫さんの話をよく聞いてあげて下さい。そして一緒に楽しんでほしいのです。

それこそが本当の教育であり、人を育てていくことなのです。

各地区敬老クラブ境内清掃奉仕

毎月十日各地区老人クラブの方々による境内清掃奉仕が行われております。今月も各地区により皆々様が境内の清掃奉仕なさって下さいました。誠に有難うございます。

九月十日ご奉仕なされた方々のご芳名

戸越六丁目	押野 登様	京子様
豊町五丁目	渡辺キミエ様、佐藤	仲子様
二葉三丁目	桜井テル子様、鈴木	恭子様
豊町六丁目	春野 フミ様、岡本	幸子様
二葉四丁目	片岡 トミ様、小島	

十月十日ご奉仕なされた方々の御芳名

二葉三丁目	岸 寿江様、小嶋	君子様
豊町五丁目	皆川アイ子様、磯	康江様
二葉四丁目	中村タミ子様、眞川功四郎様	
戸越六丁目	広瀬ひろ子様、酒井レイ子様	
豊町六丁目	原野 孝直様、山本正一郎様	

老いは神さまからの贈り物

「老い」を意識する時、人は柔和で謙虚になるものです。老いた自分を嘆くのではなく、それを受け入れ「老いは神さまの贈り物」と意識できる自分をめざしましょう。

初宮参り

平成二十四年七月以降、初宮参りに当社をご参拝なされた方々のご芳名を列記し、神様のご加護を心よりお祈り申し上げます。

木田芽華様	大藤由澄様	牧野文音様
千島陽登様	井上時成様	山岸明依様
竹治蓮音様	俣田翔太様	天坂陽花様
鈴木琉晴様	鈴木陽向様	齋藤陽矢様
飯塚由明様	榎本涼乃様	橋場友花様
大塚蒨未様	杉田美友様	石川珠美様
中村心碧様		

塵も積もれば山となす 例え

小さな善行積んで行こう

神様は不浄をお受けになりません。神様の御心に背を向けて、私利私欲で成した地位や財産は時に禍の種となり片端から幸福は遠ざかって行くものです。誰でも出来るささいな善行を一つ一つ積み重ねて行けば、安らかな神様の御かげに身も心も包まれ、自ら真の幸福が集まって来るものです。

天祖神社々務所

〒一四二一〇〇四三
東京都品川区二葉四一四一十二
TEL 〇三(三七八)二一七一
FAX 〇三(三七八)二一七一